愛知県　中高一貫教育導入方針（案）

１　中高一貫教育導入の経緯

○　愛知県では、入学者選抜を行わず同一の設置者により中学校と高校を接続した教育を行う「併設型中高一貫教育」については、2015 年３月に策定した「県立高等学校教育推進基本計画（高等学校将来ビジョン）」において、「生徒の個性や創造性を伸ばす・・・併設型中高一貫教育校について研究する」としていたが、具体的な進捗はなかった。

○　ビジョン策定後、2016 年度から県立高校の欠員が徐々に増加し、2021 年度には 2,600 人を超えるなど、県立高校を取り巻く状況が大きく変わった。また、2035 年には中学校卒業見込者の数が現在の７万人から５万７千人へと、約２割、減少することが見込まれた。こうした県立高校の置かれた大きな状況の変化を踏まえ、2021 年 12 月に「県立高等学校再編将来構想」を策定し、県立高校の魅力化・特色化、再編に向けた取組を進めていくこととした。

○　再編将来構想の策定に当たっては、県立高校長、市町村教育委員会教育長など関係の方々と幅広く意見交換を行い、その中で、併設型の中高一貫校の設置について提案があったことから、中高一貫教育制度の導入の可能性について検討した。そして、高校から導入に強い関心があり、地域の教育関係者から導入の検討に一定の理解を得られた、明和・津島・半田・刈谷高校の４校を、2022 年４月６日に、探究学習を重視するタイプの第一次導入候補校として検討を進めることを発表した。なお、併設型中高一貫校は、41 都道府県で設置されている状況であった。

○　検討に当たっては、５月に教育関係者による「中高一貫教育検討部会」を設置して、本県における中高一貫教育制度の導入について本格的に検討を進め、５月から７月まで３回の検討部会を経て、７月 26 日に、明和・津島・半田・刈谷高校の４校を第一次導入校として決定した。また、明和高校には、公立の中高一貫校では全国初となる併設中学校に音楽コースを設置することとした。

○　その後、９月から 11 月まで３回の検討部会で第二次導入候補校について検討を進めた。第一次導入校と同様の探究学習を重視するタイプについては、地域バランスを考慮し、三河地域に、豊田西・時習館・西尾高校の３校を追加設置することについて検討した。また、不登校経験者や外国にルーツのある生徒が能力や可能性を伸ばすことができる学校、中学校や地域の様々な人たちと連携協力しながら中学校と高校が接続した教育を目指す新しいタイプの地域連携型の学校、さらにはＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）を先導する高度なものづくり人材を育てる学校など、地域の教育ニーズに応える、愛知らしい中高一貫校についても同時に検討を行った。

○　そして、こうした検討を経て、探究学習重視型３校、地域の教育ニーズ対応型２校、高度ものづくり型１校を、第二次導入校として追加決定した。

○　第一次・第二次導入校の決定を踏まえ、「愛知県　中高一貫教育導入方針」を定めることとした。

２　中高一貫教育導入のねらい

チェンジ・メーカーを育てる

～　自分らしさの探究と創造・チャレンジ　～

～　一人一人異なる個性をもつ子どもたちの可能性を最大限引き出す学びの実現　～

～　誰もが社会の変革者となる学びの推進　～

（趣　旨）

○　現在の社会は加速度的に変化し続けており、将来の予測が極めて難しい時代となっています。

○　このような社会や時代においては、様々な人と協働しながら、答えのない課題に対して、失敗を恐れずにチャレンジし、社会に変化を起こす「チェンジ・メーカー」になっていくことが求められています。

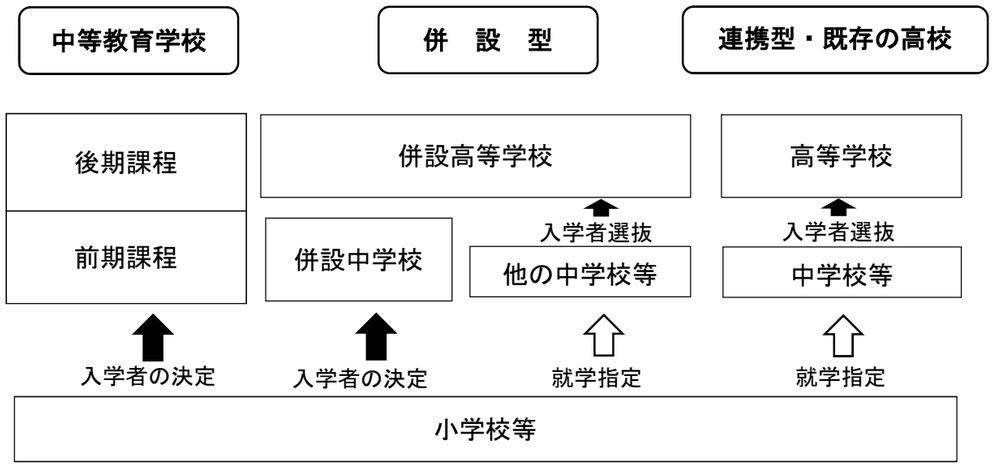
○　また、将来の予測が難しい時代においては、一部の人だけが「チェンジ・メーカー」となるのではなく、これからの時代を生きていく全ての人が、「チェンジ・メーカー」として、それぞれの個性や能力を発揮し、様々な場面で変化を起こすことが必要となります。

○　本県で、今後導入する様々なタイプの中高一貫教育では、ゆとりのある計画的・継続的な教育や、地域の方々との活動を通して、一人一人異なる個性をもつ子どもたちの可能性を最大限に引き出し、伸ばす学びを進めていきます。

そして、子どもたちが、将来、困難に遭遇した時、「この学校で、この仲間たちと、この先生たちと、この地域の人たちと、一緒に学んで良かった」と思えるような学校づくりを進めていきます。

（参考１）中高一貫教育の実施形態

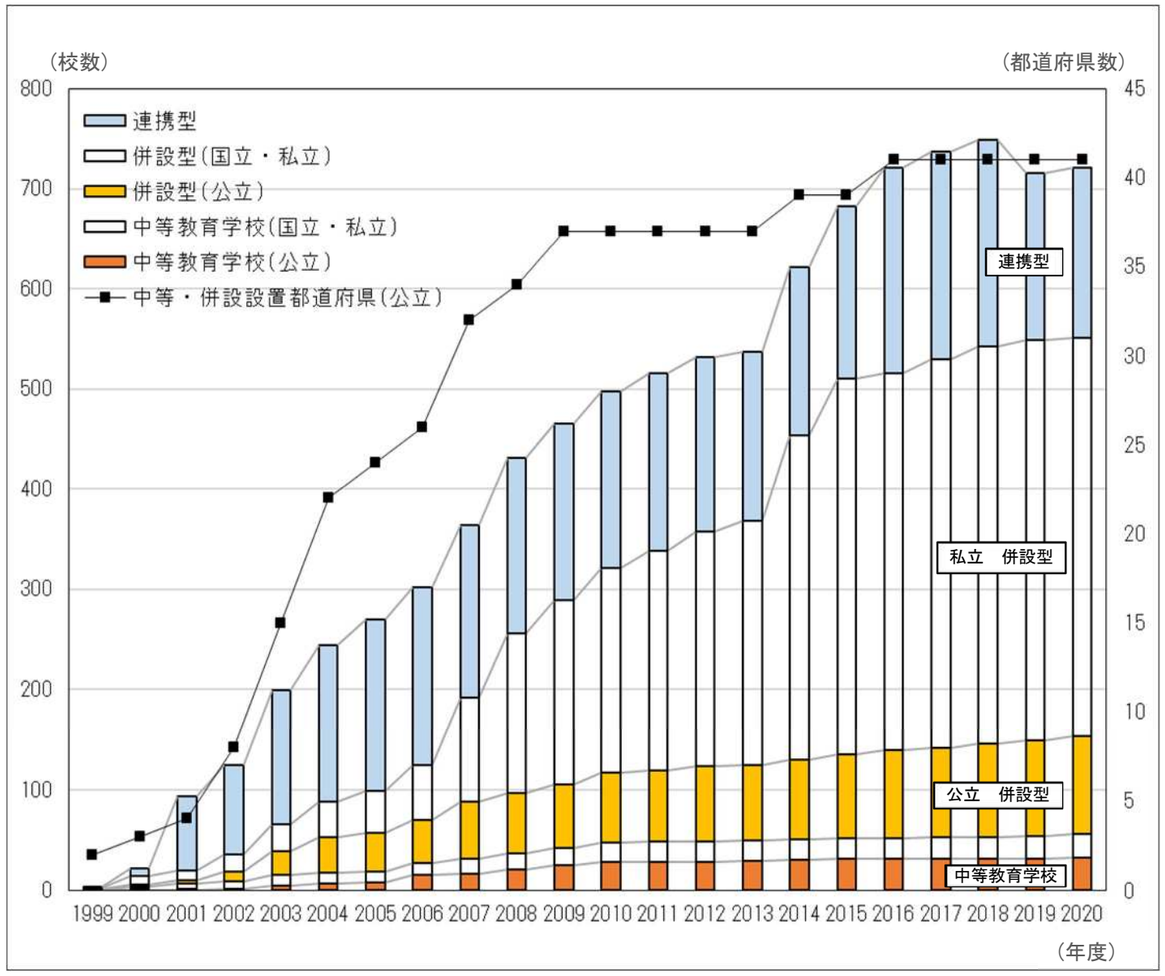
類　型	内　　容
中等教育学校	**一つの学校**として、**一体的に中高一貫教育**を行う。
併設型の中学校・高校	**高等学校入学者選抜を行わず**に、**同一の設置者**による中学校と高等学校を接続する。
連携型の中学校・高校	市町村立中学校と県立高校など、**異なる設置者間でも実施可能な形態**で、中学校と高校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の**連携を深める形で中高一貫教育を実施**する。 ※本県の例：県立福江高校（田原市）⇔福江中学校 県立新城有教館高校作手校舎（新城市）⇔作手中学校 県立田口高校（設楽町）⇔設楽中学校、津具中学校 東栄中学校、豊根中学校



（参考２）中高一貫教育　全国の設置状況（2020 年度）

併設型を中心に、設置校数が増加傾向にあり、41 都道府県で、公立の中等教育学校または併設型を設置している。

未設置：富山、岐阜、愛知、三重、鳥取、島根



探究学習重視型　中高一貫校の概要

＜第一次導入校＞２０２５年４月開校（２０２２年７月２６日発表済）

※タイプ欄の□囲み番号は、次ページ以降の各校導入プランの番号を示す

タイプ	地　区	学校名（所在地）	１学年学級数 中学校	１学年学級数 高校（現在）	現在の高校における取組、特色	導入のイメージ
1 ＳＳＨ実施校	名古屋	明和高校（名古屋市東区）	普通コース ２学級 80 人	普通科 ８学級	都市に起因する現象や課題などをテーマに、大学、企業、行政と連携して**科学技術リーダーを育成**。	○　ＳＳＨ(※)の探究的な学びをベースに、中学校段階から教科横断的な、文理融合の探究的な学びに取り組む。 ※ＳＳＨ（ｽｰﾊﾟｰｻｲｴﾝｽﾊｲｽｸｰﾙ） 文部科学省の研究指定校。将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察、実験等を通じた体験的・問題解決的な学習など、先進的な理数教育に取り組む。
	知　多	半田高校（半田市）	普通コース ２学級 80 人	普通科 ８学級	起業家精神育成や海外進出促進など、**先進的分野に果敢に挑戦する人材を育成**。**文理融合型探究活動**の実践を目指す。	
	西三河	刈谷高校（刈谷市）	普通コース ２学級 80 人	普通科 10 学級	**「探究系」を設置**し、自然科学と人文・社会科学の双方のアプローチから課題解決する**文理融合型探究活動**に取り組む。	
2－1 グローバル探究実施校	海　部	津島高校（津島市）	国際探究コース ２学級 80 人	普通科 ９学級	地元小中学校への英語出前授業や、国際交流活動などに取り組む**国際理解コースを普通科に設置**。	○　国際理解コースで取り組んでいる**国際交流等の取組**をベースに、**中学校段階から探究的な学びに取り組む**。 ○　**国際探究科に学科改編**し、**国際バカロレア**(※1)**を踏まえた探究的な学びを実践する**。 ○　**中学校・高校への国際バカロレアの導入**を目指す。

※１　国際バカロレア：課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、世界 150 以上の国・地域の 5,000 校以上で実施。
高校レベルのディプロマ・プログラム（DP）で、国際的に通用する大学入学資格（IB 資格）を取得し、その成績によって世界の大学への入学が可能となる。

タイプ	地　区	学校名（所在地）	１学年学級数 中学校	１学年学級数 高校（現在）	現在の高校における取組、特色	導入のイメージ
3 音楽科設置校	名古屋	明和高校（名古屋市東区）	音楽コース １学級 20 人	音楽科 １学級	音楽に必要な各分野の基礎的な力を定着させ、個々の専攻の力をより高度に伸ばし、**音楽の専門家を育成**。	○　中学校段階から、充実した環境の中で個々の才能を最大限に伸ばし、現代社会とのつながりを意識した**アーティストを輩出**する。

＜第二次導入校＞２０２６年４月開校

※タイプ欄の□囲み番号は、次ページ以降の各校導入プランの番号を示す

タイプ	地　区	学校名（所在地）	１学年学級数 中学校	１学年学級数 高校（現在）	現在の高校における取組、特色	導入のイメージ
1 ＳＳＨ実施校	西三河	豊田西高校（豊田市）	普通コース ２学級 80 人	普通科 ９学級	**地元の世界的企業や大学と連携**したイノベーションを実現する人材の育成。	○　ＳＳＨの探究的な学びをベースに、中学校段階から教科横断的な、文理融合の探究的な学びに取り組む。
	東三河	時習館高校（豊橋市）	普通コース ２学級 80 人	普通科 ８学級	ＳＳＨと、グローバルリーダーの育成を目指した**「ＡＧＨ（あいちグローバルハイスクール）**(※2)**」**の両方に指定。	○　ＳＳＨとＡＧＨの取組をベースに、中学校段階から教科横断的な、文理融合の探究的な学びに取り組む。 ○　中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
2－2 グローバル探究実施校	西三河	西尾高校（西尾市）	国際探究コース ２学級 80 人	普通科 ９学級	英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指す**「あいちスーパーイングリッシュハブスクール**(※3)**」**に指定。	○　国際交流や地元のことを学ぶ取組など、中学校段階からグローカルな探究学習に取り組む。 ○　中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。

※２　ＡＧＨ（あいちグローバルハイスクール）：文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）」の取組を継承した事業。旭丘高等学校と時習館高等学校の２校を指定。

※３　あいちスーパーイングリッシュハブスクール：英語教育の拠点校 13 校を指定し、英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指す。西尾高等学校は、西尾・岡崎・幸田圏内 13 校の拠点校。

探究学習重視型　各校の導入プラン（イメージ）

1　ＳＳＨ実施校　（設置校：明和・半田・刈谷・豊田西・時習館）

（１）課題解決型学習

○　高校受験の影響を受けずにゆとりをもって中学の授業を行えることから、生徒自ら課題を解決する**課題解決型学習**に、**中学での各教科の授業**と**総合的な学習の時間**において、各教科で身に付けた資質・能力を生かし、課題解決にしっかりと取り組むことにより、**学ぶ意欲や探究心を十分に引き出す**。

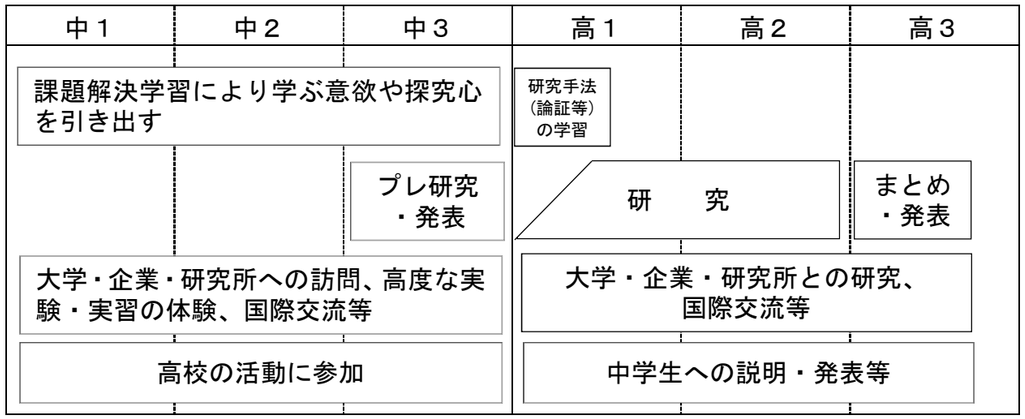
（２）中高一貫した探究的な学び

○　高校のＳＳＨで取り組んでいる大学・企業・研究所との連携や国際交流などの実績を生かし、**中学校段階**から、**大学・企業・研究所への訪問**や、**高度な実験・実習体験**、**国際交流**などに取り組み、**興味・関心を高める**とともに**教養を広める**。

○　高校のＳＳＨで取り組んでいる**研究**を、**中学校段階から時間をかけて取り組み**、「生徒がじっくりと研究テーマを探す」、「実験で試行錯誤する」、「テーマを途中で見直す」など、**長期間にわたる自律的な探究学習**を行う。

○　「中学生と高校生が話し合う」「お互いの発表を聞く」など、**異校種間の取組**を行う。

＜ＳＳＨの取組を中学校段階から取り入れるイメージ＞



※具体的な教育内容や、内進生と外進生の混合時期については、今後検討。

（３）教科学習

○　中学校段階では、少人数・習熟度別指導により、基礎基本の定着を図りつつ、**中学校と関連深い高等学校の学習内容に中学校段階からしっかりと触れる**ことで、より深い学びに取り組む。

○　**探究を深めるための先取りは行う。大学受験に特化して授業進度を早めることは目指さない。**

（４）国際バカロレアの導入

○　**時習館高等学校**においては、ＡＧＨの取組を踏まえ、**中学校・高校への国際バカロレアの導入**を目指す。

（参考）各高校における　これまでのＳＳＨの取組

○　自分でテーマを決めて研究する「課題研究」を高校１～３年まで取り組み、高校３年で成果発表を行っている。

○　国際交流や、大学・企業・研究所等との連携なども実施している。

高等学校	主な取組
明　和 SSH 第Ⅱ期 2017～2021 年度 の取組	・課題研究（１・２年）、言語探究・理科探究（３年） ・成果発表会（３年） ・夏の事業（講座・校外学習等） ・留学生の受け入れ・海外研修 ・グローバルサイエンス交流会（英語での研究発表）
半　田 SSH 第Ⅱ期 2018～2022 年度 の取組	・探究（１・２・３年） ・１・２年合同探究発表会（１・２年） ・知多地区生徒探究発表会（３年） ・国際交流（受け入れ・訪問） ・サイエンスコミュニケーション（講演会等）
刈　谷 SSH 第Ⅱ期 2016～2020 年度 の取組	・課題研究（１・２・３年） ・ポスターセッション（全学年） ・刈高サイエンスマッチ（クラス対抗競技会）（１年・２年） ・全校英語発表会（３年） ・研究施設訪問
豊田西 SSH 第Ⅱ期 2018～2022 年度 の取組	・課題研究（１・２・３年） ・ＳＳＨ中間発表会（１・２年） ・ＳＳＨ成果発表会（全学年） ・産学公（企業、大学・研究所、豊田市等）との連携 （訪問研修・課題研究・野外調査等）
時習館 SSH 第Ⅲ期 2018～2022 年度 の取組	・探究基礎（１年）、探究（２・３年） ・ＳＳＨ成果発表会（３年） ・海外研修（英国・マレーシア） ・ＳＳＨ特別講演会 ・中学生科学実験講座、東三河海洋環境探究講座

2-1　グローバル探究実施校　（設置校：津島）

（１）課題解決型学習

○　高校受験の影響を受けずにゆとりをもって中学の授業を行えることから、生徒自ら課題を解決する**課題解決型学習**に、**中学での各教科の授業**と**総合的な学習の時間**において、各教科で身に付けた資質・能力を生かし、課題解決にしっかりと取り組むことにより、**学ぶ意欲や探究心を十分に引き出す。**

（２）国際バカロレアの導入

○　国際理解コースで取り組んでいる国際交流等の取組をベースに、**中学校に国際探究コースを設け、国際的な視点をもって探究的な学び**に取り組む。

○　津島高等学校普通科の一部を**国際探究科に学科改編**し、**国際バカロレアを踏まえた探究的な学び**を実践する。

○　**中学校・高校への国際バカロレアの導入**を目指す。

＜国際バカロレア導入イメージ＞

年度	2023	2024	2025	2026	2027	2028
中学校	開校等準備		・開校（国際探究ｺｰｽ） ・MYP 導入（候補校） →		（認定校）	
高　校			・国際探究科 学科改編	日本語 DP 準備		・日本語 DP 導入

※MYP（Middle Years Programme）：11 歳から 16 歳を対象。どのような言語も可能。

※日本語 DP（Diploma Programme）：DP は、大学入学資格の認定証書（Diploma）を得るため、16 歳から 19 歳までを対象として２年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格が取得可能となるプログラム。原則、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があるが、日本語 DP では、一部の科目を日本語でも実施可能（最低２科目（外国語含む）は英語で実施）。

2025 年度入学の内進生が高校へ進学

※具体的な教育内容（日本語 DP のうち英語で実施する科目等）、内進生と外進生の混合時期については、今後検討。

（３）教科学習

○　中学校段階では、少人数・習熟度別指導により、基礎基本の定着を図りつつ、**中学校と関連深い高等学校の学習内容に中学校段階からしっかりと触れる**ことで、より深い学びに取り組む。

○　**探究を深めるための先取りは行う。大学受験に特化して授業進度を早めることは目指さない。**

2－2　グローバル探究実施校　（設置校：西尾）

（１）課題解決型学習

○　高校受験の影響を受けずにゆとりをもって中学の授業を行えることから、生徒自ら課題を解決する**課題解決型学習**に、**中学での各教科の授業**と**総合的な学習の時間**において、各教科で身に付けた資質・能力を生かし、課題解決にしっかりと取り組むことにより、**学ぶ意欲や探究心を十分に引き出す。**

（２）国際バカロレアの導入

○　「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」で取り組んでいる国際交流や、地元のことを学ぶ「西尾学」などの取組をベースに、**中学校に国際探究コースを設け、国際的な視点をもって、中学校段階からグローカルな探究学習**に取り組む。

○　**中学校・高校への国際バカロレアの導入**を目指す。

○　国際バカロレアの導入時期や具体的な教育内容、内進生と外進生の混合時期については、今後検討する。

（３）教科学習

○　中学校段階では、少人数・習熟度別指導により、基礎基本の定着を図りつつ、**中学校と関連深い高等学校の学習内容に中学校段階からしっかりと触れる**ことで、より深い学びに取り組む。

○　**探究を深めるための先取りは行う。大学受験に特化して授業進度を早めることは目指さない。**

3　音楽科設置校　（設置校：明和）

○　中学校段階から、**充実した環境**の中で、個々の**音楽の才能を最大限に引き出す。**
さらに、音楽の専門的な技術だけでなく、**広く教養を身に付け、現代社会とのつながりを意識したアーティストを輩出**する。

○　具体的な教育内容については、今後検討する。

・音楽コースのクラス編成

・音楽コースと普通コースの生徒は、どの教科の授業を一緒に受けて、どの教科の授業を別に受けるのか　　など

探究学習重視型　中高一貫校の概要（教員配置・選考方法・学区等）

１　併設中学校の教員配置

○　中学校教員と、中学校の免許をもつ高等学校教員を配置する。

○　あわせて、中高交流人事を進めるとともに、中高一貫校に勤務する教員を別枠で確保する。

２　入学生徒の選考方法

（１）適性検査

○　出題は、小学校学習指導要領の範囲内とし、思考力、判断力、表現力、課題解決力等を総合的に測る。

（２）面接

○　中高の６年間学び続ける意欲や志望動機、適性、コミュニケーション能力などを見る。

（３）調査書

○　調査書の内容や取扱いについては、小学校現場の負担も配慮しながら、今後検討する。

（４）その他

○　明和高校の併設中学校（音楽コース）は、実技検査を実施する。

○　抽選の導入の有無は、今後検討する。

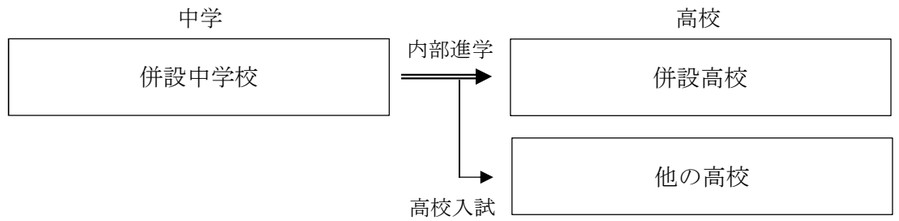
３　併設中学校の通学区域（学区）

○　内部進学する高校の学科に応じ、愛知県立高等学校の通学区域に準じて設定する。

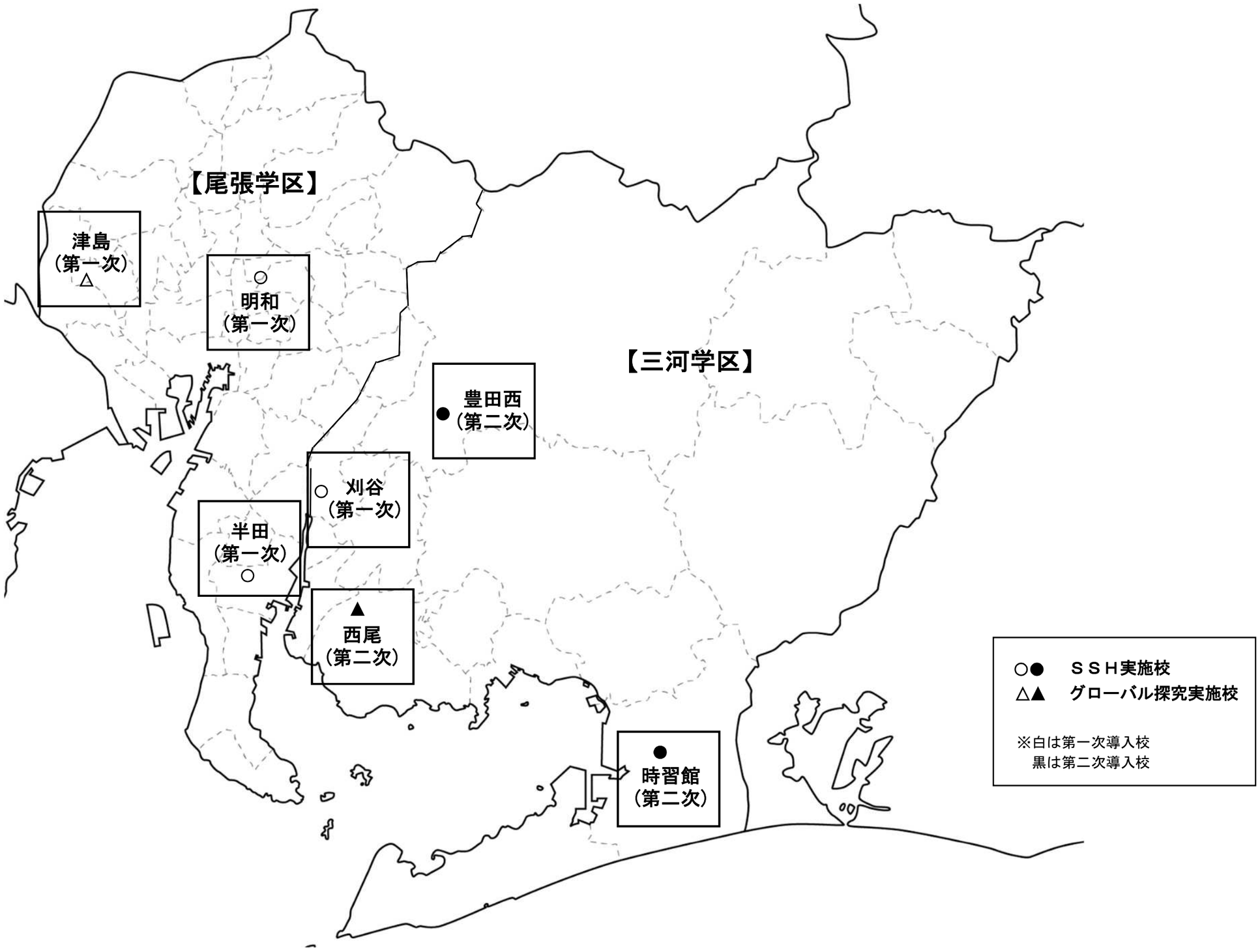
学校名	学　科	学　区
明　和	普通科	尾張学区
	音楽科	県内全域
津　島	国際探究科	県内全域
半　田	普通科	尾張学区
刈　谷	普通科	三河学区（調整区域として、大府市・豊明市・知多郡東浦町を含む）
豊田西	普通科	三河学区（調整区域として、日進市・愛知郡東郷町を含む）
時習館	普通科	三河学区
西　尾	普通科	三河学区

４　進路変更への対応

○　併設高校と異なる進路先を希望する生徒については、生徒が自分の個性にあった進路変更を可能とする。



探究学習重視型　中高一貫校の配置図



検討の経過・今後の進め方

１　検討の経過

年月日	検討内容
２０２２年 ４月６日	○「県立高等学校への併設型中高一貫教育制度導入の可能性の検討について」発表 ・第一次導入候補校を明和・津島・半田・刈谷の４校として導入の可能性を検討 ・第二次以降の導入候補校を検討 ・「地域密着型」の導入についても検討
４月 26 日	○第１回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」（親会議） ・「中高一貫教育導入検討部会」の設置について承認
５月 13 日	○第１回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第一次導入候補校に係る５つの論点を検討。 ①通学区域、②教育課程、③高校での内進生と外進生の混合時期、④併設中学校の教員配置、⑤入学生徒の選考方法
６月９日	○第２回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第一次導入候補校のねらいや特色について検討 ・第二次以降の導入候補校の方向性について検討
７月 14 日	○第３回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第一次導入候補校４校に併設型中高一貫教育制度を導入することについて、導入する方向で取りまとめ
７月 25 日	○第２回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」（親会議） ・部会での検討結果を踏まえ、第一次導入候補校４校に導入する方向で取りまとめ
７月 26 日	○併設型中高一貫教育の第一次導入校の発表 （主な発表内容） ・明和・津島・半田・刈谷高等学校の４校で、2025 年４月に併設中学校を開校することを決定
９月 12 日	○第４回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第二次導入候補校について検討 ・第一次導入校の具体的な検討の進め方について検討
10 月 24 日	○第５回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第二次導入候補校（地域教育ニーズ対応型等）について検討
11 月 10 日	○第６回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・「中高一貫教育導入方針（案）」について検討
11 月 24 日	○第３回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」（親会議） ・「中高一貫教育導入方針（案）」について検討
11 月 28 日	○「中高一貫教育導入方針（案）」の発表

２　今後の進め方

（１）ワーキンググループにおける具体的な検討

○　導入校ごとに、実務者によるワーキンググループを設置し、併設中学校の教育内容や、教員配置、入学生徒の選考方法などを検討する。

○　適性検査の詳細な内容は、ワーキンググループを別途設けて検討する。

○　ワーキンググループの意見を取りまとめ、必要に応じて部会で検討する。

○　高校の教育課程や、内進生と外進生の混合時期は、導入校が、各校の特色を踏まえて別途検討する。

（２）児童、保護者への説明

時　　期	説　明　内　容
2023 年度　春～夏	適性検査の概要を公表
2023 年度　秋	第一次導入校説明会の開催 （主な内容） ・各校の教育内容 ・入学生徒の選考方法（日程等）
2023 年度　秋～冬	適性検査のサンプルを公表

「愛知県　中高一貫教育導入方針（案）」等に対する意見募集に関しては次のＵＲＬへ

https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kotogakko/chukoikkan-houshin.html